

SY2-5

多職種への小児科教育
～小児T&Aコース～

茂木 恒俊

悠翔会在宅クリニック流山 院長

小児診療に従事する専門職には医師だけでなく、看護師や薬剤師、救急救命士といった多くの職種が含まれています。特に地域によっては、小児科専門の医師が不足しているため、他の科の医師が小児診療を担うこともあります。このような背景から、多職種が小児診療の基礎を学べるよう、2009年から小児救急初療コース（小児T&A）が開発されてきました。このコースは146回以上開催され、時代のニーズに合わせて進化し続けています。小児T&Aの主な目的は、小児診療の質を高め、異なる職種や専門間の連携を促進し、さらにそれを強化することです。シミュレーション教育を通じて、参加者は重要な疾患への系統的な対応方法を習得し、単に知識がある状態（KNOW）から、その知識を実際の状況で適用できる（KNOWS HOW）レベルへと育成しています。

さらに、小児科医に相談を促すタイミングや、退院時のホームケアの指導など、実際の診療現場で直面するであろう状況への対処法を、シミュレーションを通して学ぶことができます。異なる専門職が一緒に学び合うことで、チームとしての連携が深まり、共通言語を用いることでコミュニケーションスキルも向上します。これにより、緊急時の迅速かつ冷静に対応する能力が身に付けられます。同一組織内でコースを受けた病院では、小児T&Aで得た知識が小児診療の基盤となり、一種の「文化」として継承されています。

多くの医療者が小児診療への参加に意欲を見せていますが、実際にどのようにして学ぶべきか迷っている人もいます。小児T&Aは、小児診療の入門として大きな役割を果たし、多くの医療者にとってのステップアップの場として重要な役割を担っていると確信している。